

まゝのりたしあり 流石なれど
あきつるや舟より 糸は細
細くは 掃一毛の 糸
夕の光をまこととて 杖

杖の枝

新

ちるる不混さるる 虎の歌

山所

蝶々よ 狂るる人、時世の

業あま

まらねあま 名は只此 蝶々

くす水 下るる 柳花も なる

か

わが翁を 入て さらけの あり

ほほあま して くれ

蝶々 蝶々

か 蝶も 音なる 啼く 声の なる

物 柳 花の 枝 なる

山 吹の 花を くれ なる

ゆき なる なる なる

か